

私たち福島県生活環境部は、県の最上位計画である「福島県総合計画」とそれに連なる「環境基本計画」などの計画に基づき、東日本大震災と原発事故を始めとする「災害からの復興・再生」と「県民生活の安定・向上」に向けて、3つの柱（「環境」・「ひと」・「くらし」）の下、各種施策に総力を挙げて着実に取り組みます。

環境

環境回復の推進

【総合計画に掲げる目標（～令和12年度）】

『本県の震災・原発事故からの復興・再生が進んでいる』と回答した県民の割合
 (令和7年度) (令和12年度)
56.8% ➡ 70%以上

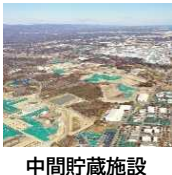
避難解除区域の居住人口

(令和6年度) (令和12年度)
※R7.7月1日時点
65,179人 ➡ 増加を目指す

【上記に向けて令和8年度に取り組むこと】

○中間貯蔵・県外最終処分

中間貯蔵施設の運営状況を確認するとともに、国に対し、県外最終処分の実現に向け、政府一丸となって取組を加速させるよう求めます。



中間貯蔵施設

○調査研究の推進（環境創造センター）

国の研究機関と連携・協力して、県民の安全安心につながるよう、環境回復・創造に関する調査研究を推進します。



フィールド調査の様子

○消費者風評対策

県外の消費者に県内の農林水産物の生産者等から「ふくしまの今」を伝えるなど、消費者への理解促進を図ります。

「ふくしまの今を語る人」派遣事業の実施回数
 令和8年度目標
45回以上/年

○ふくしまグリーン復興構想（2期）

絶景ビューポイントの追加設定など、自然公園の更なる魅力向上に取り組むほか、ラムサール条約湿地への登録を契機とした猪苗代湖の魅力向上・発信に取り組めます。

自然公園の利用者数
 令和8年度目標
10,640千人

○除染等の推進

市町村の行う仮置場の原状回復を支援します。また、自治体等の意向を踏まえた特定帰還居住区域等の除染を国に求めます。

原状回復する仮置場の箇所数（市町村分）
 令和8年度目標
4箇所/年

○コミュニティ福島を活用した情報発信

展示やイベントなどを通じて、本県の復興・再生の現状や放射線に関する正確な情報、気候変動問題に関する取組などを発信します。

環境創造センター「コミュニティ福島」利用者数
 令和8年度目標
80,000人/年

○風評対策（海外）

駐日外交団に対する情報発信や在外県人会等との連携、SNSの活用等を通じ、本県の魅力を世界に発信します。

SNSによる「ふくしまの今」発信回数
 令和8年度目標
50回以上/年

○野生鳥獣

生活環境被害や農業被害を防止（軽減）するため、各特定管理計画に基づき対策を推進します。

イノシシ捕獲頭数（年間）
 令和8年度目標
25,000頭以上最大限

未来志向の環境施策の推進

【総合計画に掲げる目標（～令和12年度）】

温室効果ガス排出量（2013年度比）
 (令和5年度) (令和12年度)
△26.8% ➡ △50%

一般廃棄物の排出量（1人1日当たり）
 (令和6年度) (令和12年度)
953g/日 ➡ 全国平均値以下
（目標参考値860g/日）

『本県の豊かな自然や美しい景観が保全され、野生鳥獣との共生が図られている』と回答した県民の割合
 (令和7年度) (令和12年度)
49.3% ➡ 82%以上

【上記に向けて令和8年度に取り組むこと】

○気候変動対策（全般）

福島県気候変動対策推進計画に基づき、緩和策と適応策を両輪として、総合的かつ計画的に気候変動対策を推進します。

ふくしまゼロカーボン宣言事業参加団体数
 令和8年度目標（事業所版）（学校版）
7,000事業所 980校

○気候変動対策（緩和策）

福島県地域脱炭素推進コンソーシアムを通じた企業の脱炭素化や学生との共創による情報発信など温室効果ガス排出量削減に向け実効性ある取組を進めます。

温室効果ガス排出量削減モデル企業
 令和8年度目標
10件

○気候変動対策（適応策）

県気候変動適応センターを中心として、気候変動とその影響、熱中症対策などの適応策について、情報収集・分析を行い、県民、市町村等に発信します。



出典：気候変動適応情報プラットフォーム

○PCB廃棄物への対応

低濃度PCB廃棄物について、事業者の処分費用や事務手続きを低減する枠組みにより、期限内処理を加速します。

集団回収による低濃度PCB廃棄物の処理台数
 令和8年度目標
660台

○生物多様性

生物多様性の保全を図るため、県生物多様性推進センターの運営や外来生物駆除の担い手を育成するモデル事業を展開します。

外来生物駆除の担い手を育成するモデル事業
 令和8年度目標
12件

○ごみの減量化

市町村の3R推進の取組への支援に取り組むほか、食品ロス削減や食品残さの堆肥化などによる資源循環の取組を推進します。

一般廃棄物の排出量（1人1日当たり）
 令和8年度目標の目安
923g/日

○エシカル消費の普及・啓発

エシカル消費※の更なる意識醸成を図るため、エシカルマルシェの開催や、SNS等を活用した情報発信に取り組めます。

「エシカル消費」県公式インスタグラムビュー数
 令和8年度目標
24万ビュー/年

○猪苗代湖水環境保全

県民が一丸となった水環境保全に向けた活動を推進するとともに、水生植物の回収強化などに取り組めます。

猪苗代湖のCOD※値
 令和8年度目標
1.2mg/L以下

※ 地球環境等に配慮した商品やサービスを選んで消費すること。

※ CODは化学的酸素要求量の略。

ひと 一人一人が生き生きと輝く社会の実現

【総合計画に掲げる目標（～令和12年度）】

『多様性を理解した社会づくりが進んでいる』と回答した県民の割合 (令和7年度) (令和12年度) 29.3% ➡ 80%以上	『福島県は外国人にとって暮らしやすい』と回答した外国人住民の割合 (令和7年度) (令和12年度) 69.2% ➡ 80%以上	『地域において、女性の社会参加が進んでいる』と回答した県民の割合 (令和7年度) (令和12年度) 27.3% ➡ 67%以上
---	--	--

【上記に向けて令和8年度に取り組むこと】

<p>○男女共同参画・女性活躍推進 性別にかかわらず誰もが活躍できる環境づくりのため、固定的な性別役割分担意識の解消に向けた取組や、男女共生センターでの啓発・実践活動に取り組めます。</p> <p>県の審議会等における委員の男女比率 いずれの性も 40% を下回らない</p>	<p>○犯罪被害者等支援 犯罪被害者とその家族等を社会全体で支えるため、各種支援事業や県民の理解促進に取り組めます。</p> <p>講演会等の県民の参加者数 令和8年度目標 150名以上</p>
<p>○多様性・ユニバーサルデザイン 県民を対象として、体験学習会等を開催し、多様性社会への理解を深め意識の向上を図ります。</p> <p>ユニバーサルデザインに関する研修等開催回数 令和8年度目標 3回以上</p>	<p>○人権尊重 SACRAふくしまによる性暴力等被害者の支援（相談・医療費助成）を国のコールセンターと連携し、24時間体制で行います。</p> <p>性暴力等関係相談窓口 はやくワンストップ #8891</p>
<p>○東日本大震災等による女性の悩み・相談 電話や面接による相談等により、震災などの影響で生活等の困難を抱える女性に寄り添った支援を行います。</p> <p>相談件数 令和8年度計画 2,000件/年</p>	<p>○旅券のデジタル化推進 旅券の電子申請や手数料のオンライン納付などにより、旅券を取得しやすい環境づくりに取り組めます。</p> <p>一般旅券（5年・10年）</p>
<p>○多文化共生社会 多言語相談窓口の運営や、やさしい日本語の普及、外国人住民と地域との交流促進などに取り組めます。</p> <p>「やさしい日本語」交流事業参加者数 令和8年度目標 6,650人 (累計)</p>	<p>○国際交流 語学指導等外国青年の招致や国際会議の場などを通じて、グローバル人材の育成や国際交流を推進します。</p> <p>MICE（国際的な会議等）件数 令和8年度目標 40件/年</p>

令和8年度生活環境部の主な重点事業

【環境】環境回復の推進／未来志向の環境施策の推進			
○チャレンジふくしま世界への情報発信事業	88,283千円	○ふくしまグリーン復興推進事業(第二期)	36,943千円
○地球にやさしい消費推進事業	13,020千円	○未来へつなぐ猪苗代湖交流学习推進事業	31,703千円
○カーボンニュートラル推進事業	265,274千円	○わたしから始めるごみ減量事業	75,106千円

くらし 安全に安心して暮らせる社会の実現

【総合計画に掲げる目標（～令和12年度）】

『国内外の友人・知人に対して、自信をもって紹介できる地元のもの（自然、特産品、観光、文化など）がある』と回答した県民の割合 (令和7年度) (令和12年度) 58.6% ➡ 78%以上	交通事故死者数 (令和7年) (令和12年) 53人 ➡ 45人以下	『食品や日用品など、消費生活に関して不安を感じることなく、安心して暮らしている』と回答した県民の割合 (令和7年度) (令和12年度) 57.1% ➡ 79%以上
---	--	--

【上記に向けて令和8年度に取り組むこと】

<p>○JR只見線の安全運行と利活用の促進 鉄道施設等の維持管理を行うとともに、運転再開後の盛り上がりを一過性で終わらせることのないよう、地元や関係機関と連携して、利活用の促進に取り組めます。</p> <p>平均通過人員※ 令和8年度目標 100人/日以上 ※会津川口駅～只見駅間の1日1km当たりの利用者数</p>	<p>○交通安全対策 交通事故防止対策のため、関係団体と連携しながら年4回の交通安全運動を始めとした県民運動を展開します。</p> <p>交通事故死者数 令和8年目標 49人以下</p>
<p>○バス路線の維持・確保 バス事業者が運行する生活交通路線に対し国と協調して支援を行い、県民の日常生活の足を確保します。</p> <p>乗合バスの年間利用者数 令和8年度目標 15,515千人</p>	<p>○自転車損害賠償責任保険等の加入率向上及び自転車ヘルメット着用促進のため、関係団体等と連携した周知啓発を行います。</p> <p>啓発用ポスター</p>
<p>○第三セクター鉄道の支援 阿武隈急行、会津鉄道、野岩鉄道の安全運行及び経営の健全化を図ります。</p> <p>阿武急 ラブ＆ラキートレイン</p>	<p>○消費者行政の推進・強化 各世代に応じた消費者教育を推進するとともに、市町村の相談体制等を強化するなどの取組を支援します。</p> <p>消費生活センター設置市町村の県内人口カバー率 令和8年度目標 83.5%</p>
<p>○JRローカル線の利活用 水郡線、磐越東線、磐越西線などのJR路線について、沿線自治体等と連携した利活用に取り組めます。</p> <p>磐越東線「ふくしま鉄道博」ローカル鉄道利活用サミット</p>	<p>○食の安全・安心の推進 食と放射能に関する正しい情報の発信を推進し、消費者の理解を深めます。</p> <p>食と放射能に関する説明会開催回数 令和8年度目標 60回以上/年</p>

【ひと】一人一人が生き生きと輝く社会の実現

○ともに輝くふくしまライフスタイル推進事業 35,961千円

【くらし】安全に安心して暮らせる社会の実現

○ひとつ、ひとつ、つなげる、只見線利活用事業102,116千円